



Creating the Future with Adhesive Technologies

Linkage + Technology

LINTEC

夢をカタチにする粘着技術のリンテック

会社概要

■本 社	東京都板橋区
■証券コード	7966(東証1部)
■設 立	1934年(昭和9年) 10月15日
■資本金	233億円(21年3月末)
■従業員数	4,913人(21年3月末):連結
■売上高	2,359億円(21年3月期):連結
■決算日	3月31日
■事業内容	粘着製品、粘着関連機器、特殊紙、 剥離紙・剥離フィルムなどの開発・製造・販売
■事業拠点	国内連結子会社: 3社 海外連結子会社: 39社



1934年
(昭和 9年)

**ガムテープメーカー「不二紙工株式会社」
設立(東京・板橋)** ※1984年 FSK株式会社に商号変更



1960年
(昭和35年)

**ラベル用粘着紙・粘着フィルムの
製造・販売を開始**

以降、二輪・自動車、屋外装飾関連などの
工業分野に粘着事業を拡大

1986年
(昭和61年)

**UV硬化型ダイシングテープを開発し、
半導体関連分野に本格参入**



1987年
(昭和62年)

マディコ社(米国)を買収

1990年
(平成 2年)

**四国製紙、創研化工と3社合併
「リンテック株式会社」に商号変更**
特殊紙、剥離紙・剥離フィルムから粘着紙・
粘着フィルム、関連機器分野にまで業容を拡大



1991年
(平成 3年)

液晶関連分野に本格参入

1994年
(平成 6年) **リンテック・インドネシア社を設立**

2000年
(平成12年) **リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社を設立**

2002年
(平成14年) **琳得科(蘇州)科技有限公司を設立**

リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(韓国)社を設立

2003年
(平成15年) **リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(台湾)社を設立**

2004年
(平成16年) **リンテック・コリア社を設立**

2015年
(平成27年) **リンテック・アジアパシフィック社を設立**

2016年
(平成28年) **マックタック・アメリカ社を買収**

2021年
(令和 3年) **デュラマーク社(米国)を買収**



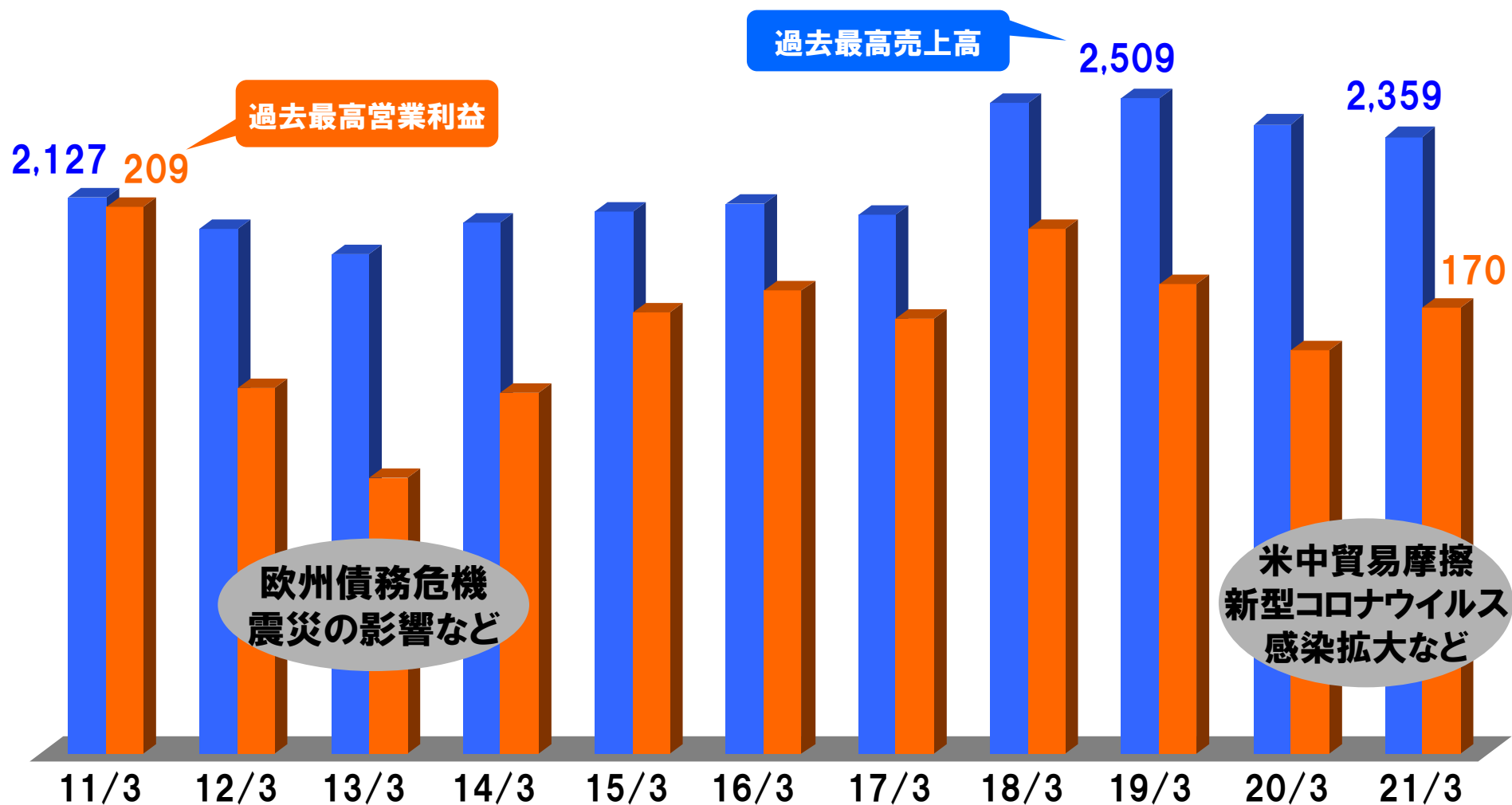
琳得科(蘇州)科技有限公司



マックタック・アメリカ社

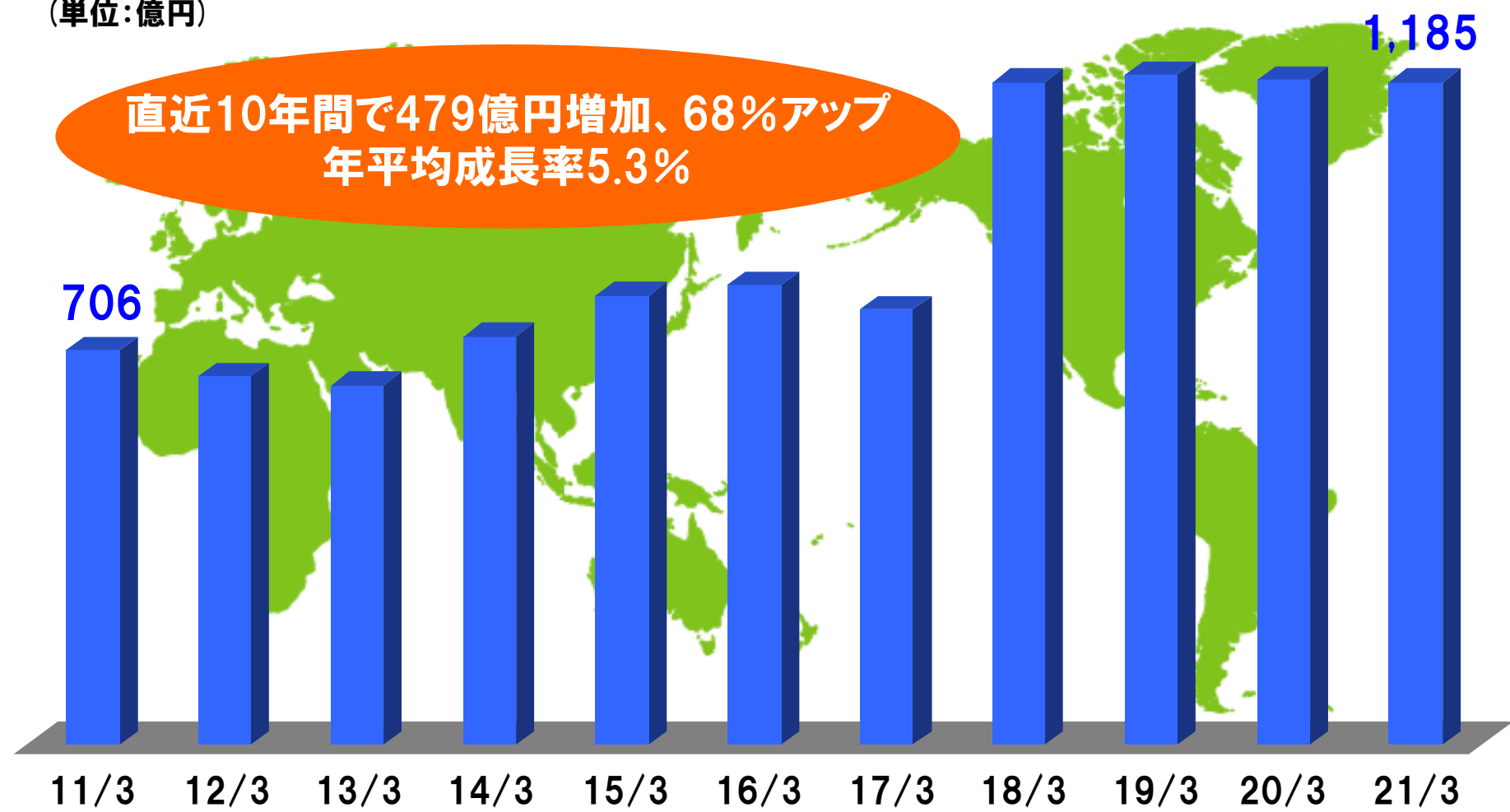
業績推移／売上高、営業利益

単位：億円 ■ 売上高 ■ 営業利益



業績推移／海外売上高

(単位:億円)

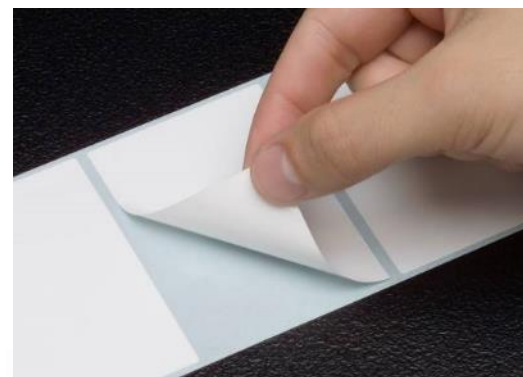


33.2%

海外売上高比率

50.2%
※数値は参考値

粘着製品の基本構成



①表面基材（紙・フィルム）

- 表面加工
印刷・印字適性、耐久性など



②粘着剤

③剥離紙・剥離フィルム

トータルに自社技術で対応

四つの基盤技術と事業セグメント

基盤技術

1

粘着応用技術

2

表面改質技術

3

システム化技術

4

特殊紙・剥離材製造技術

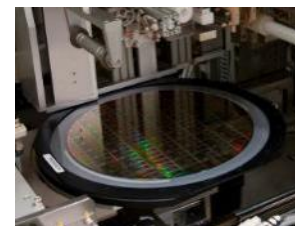
印刷材・産業工材関連

- 印刷・情報材事業部門
- 産業工材事業部門



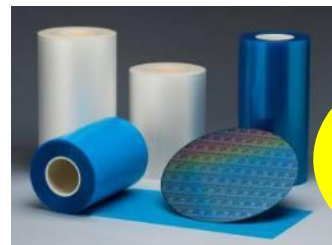
電子・光学関連

- アドバンストマテリアルズ事業部門
- オプティカル材事業部門



洋紙・加工材関連

- 洋紙事業部門
- 加工材事業部門



粘着製品
＋
関連機器



●ラベル用粘着紙・粘着フィルム

- 粘着剤によって、永久接着タイプ・再剥離タイプ・再貼付タイプに分けられる
- 印刷・印字適性、耐久性、耐熱性、耐水性、低温適性、曲面貼付性、寸法安定性、意匠性などに優れ、さまざまな用途や使用環境に対応

当事業部門売上高

850億円

36.1%

2021年3月期
連結売上高
2,359億円

■ラベル用粘着紙・粘着フィルムの用途／主な要求性能



●食品・飲料関連

- ・耐水性
- ・曲面貼付性
- ・低温適性 など



●日用品関連

- ・耐水性
- ・曲面貼付性
- ・意匠性 など



●家電関連

- ・耐久性
- ・耐熱性
- ・ガス透過性 など



●自動車関連

- ・耐油・耐水性
- ・耐久性
- ・耐熱性 など



●医療・医薬関連

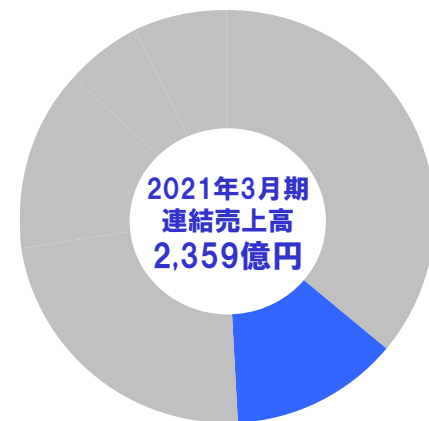
- ・印刷・印字適性
- ・耐薬品性
- ・改ざん防止機能 など



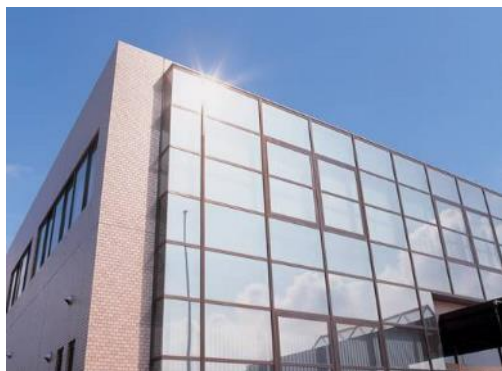
●流通・通販関連

- ・印字適性
- ・捺印適性
- ・低温適性 など

- ウィンドーフィルム
- 屋外看板・広告用フィルム
- 内装用化粧フィルム
- 自動車用粘着製品
- 工業用粘着テープ
- ラベリングマシン など



当事業部門売上高
307億円
13.0%



●自動車用粘着製品

●ドアサッシ用塗装代替フィルム ▶▶▶

独自の材料設計によって、
空気を抜けやすくし、貼付を容易に



空気の入った状態



空気のない状態

●アルミホイール用保護フィルム

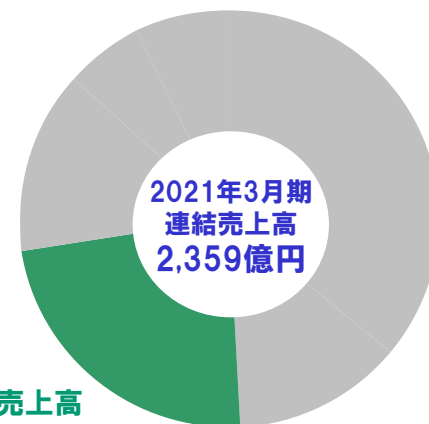


●マーキングフィルム

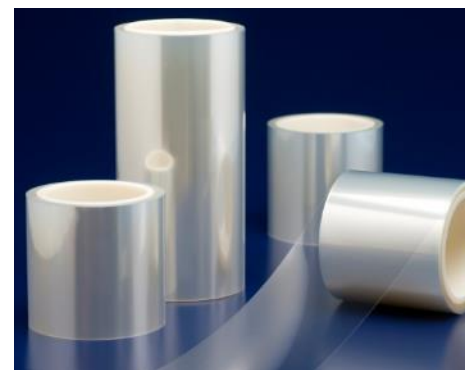
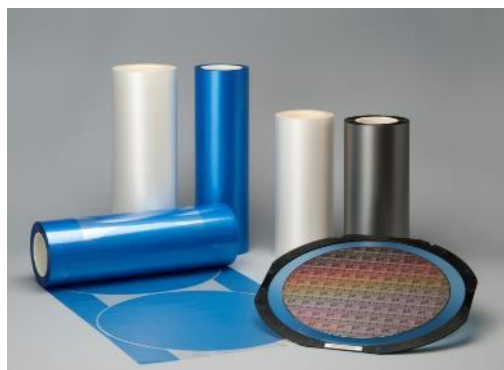
●ウインドーフィルム



- 半導体関連粘着テープ
- 半導体関連装置
- 積層セラミックコンデンサ関連テープ など



当事業部門売上高
553億円
23.4%

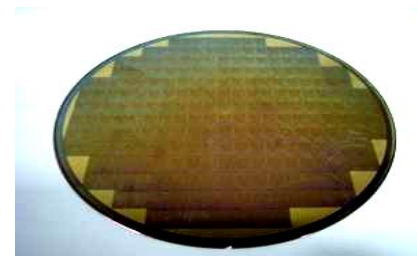


■半導体の製造工程

【前工程】

単結晶シリコン
インゴット

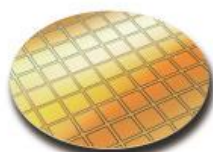
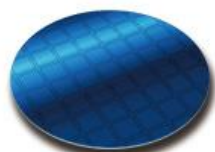
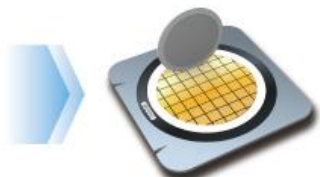
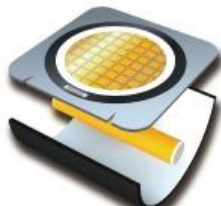
ウェハ



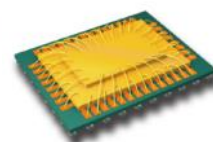
回路形成ウェハ

【後工程】

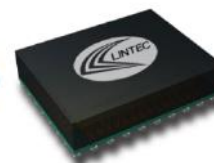
※当社テープ・装置を使用

回路形成
ウェハ表面保護
テープ貼付裏面研削
(薄型化)ダイシング
テープ貼付表面保護
テープ剥離ダイシング
(ウェハ切断)テープへの
紫外線照射

ピックアップ



実装・積層

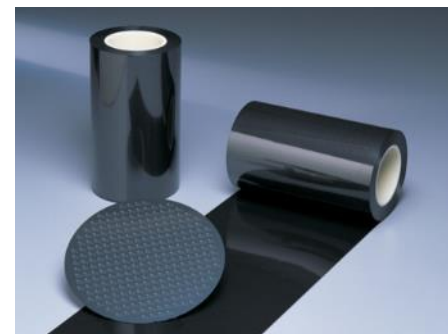


樹脂封止

●半導体関連粘着テープ／注力製品

●フリップチップ裏面保護テープ

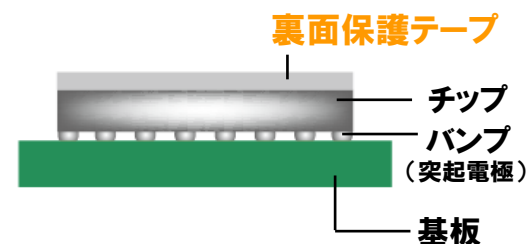
- ・回路面に bumps を形成し、基板に接続するフリップチップの裏面を保護・補強するテープ



【主な特徴】

- ・回路面への光透過を抑制し、回路面への悪影響を低減
- ・液状モールド剤のコーティングと異なり、厚みの均一性に優れ、作業工程を簡略化
- ・比較的低温での貼付が可能のため、熱による回路へのダメージを低減。当社貼付装置と組み合わせることで、より信頼性の高い製造ラインの構築に寄与
- ・ダイシングテープ一体型や赤外線を透過するタイプもラインアップ

■フリップチップ実装



●半導体関連粘着テープ／注力製品

●SDBG用ウェハ表面保護テープ

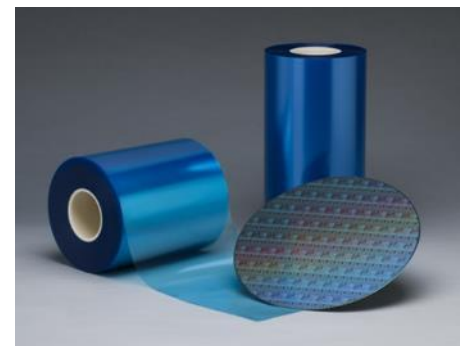
- ・SDBGプロセス*でウェハの裏面を研削する際に回路面を保護するテープ

* SDBGは Stealth Dicing Before Grinding の略で、レーザーでウェハの内部に亀裂を形成したあと、裏面研削を行うプロセス技術。ブレードを使ったプロセスと比べ、1枚のウェハから取れるチップの個数が多く、強度の高いチップの生産が可能

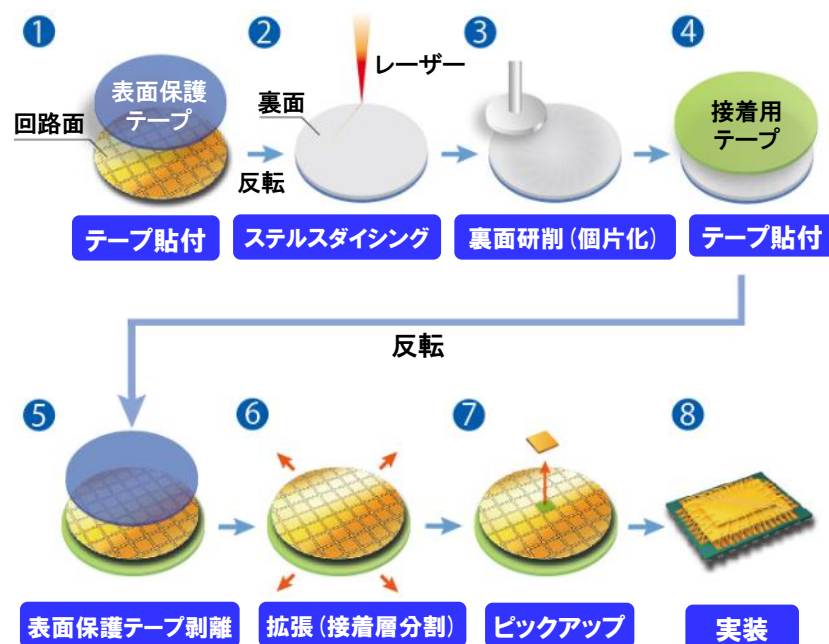
※ ステルスダイシングは浜松ホトニクス(株)が開発したレーザーダイシング技術です

【主な特徴】

- ・高い粘着力でチップの飛散や研削水の浸入を防止
- ・裏面研削時のチップ破損を抑制
- ・厚さ30 μm 以下のチップの製造にも対応

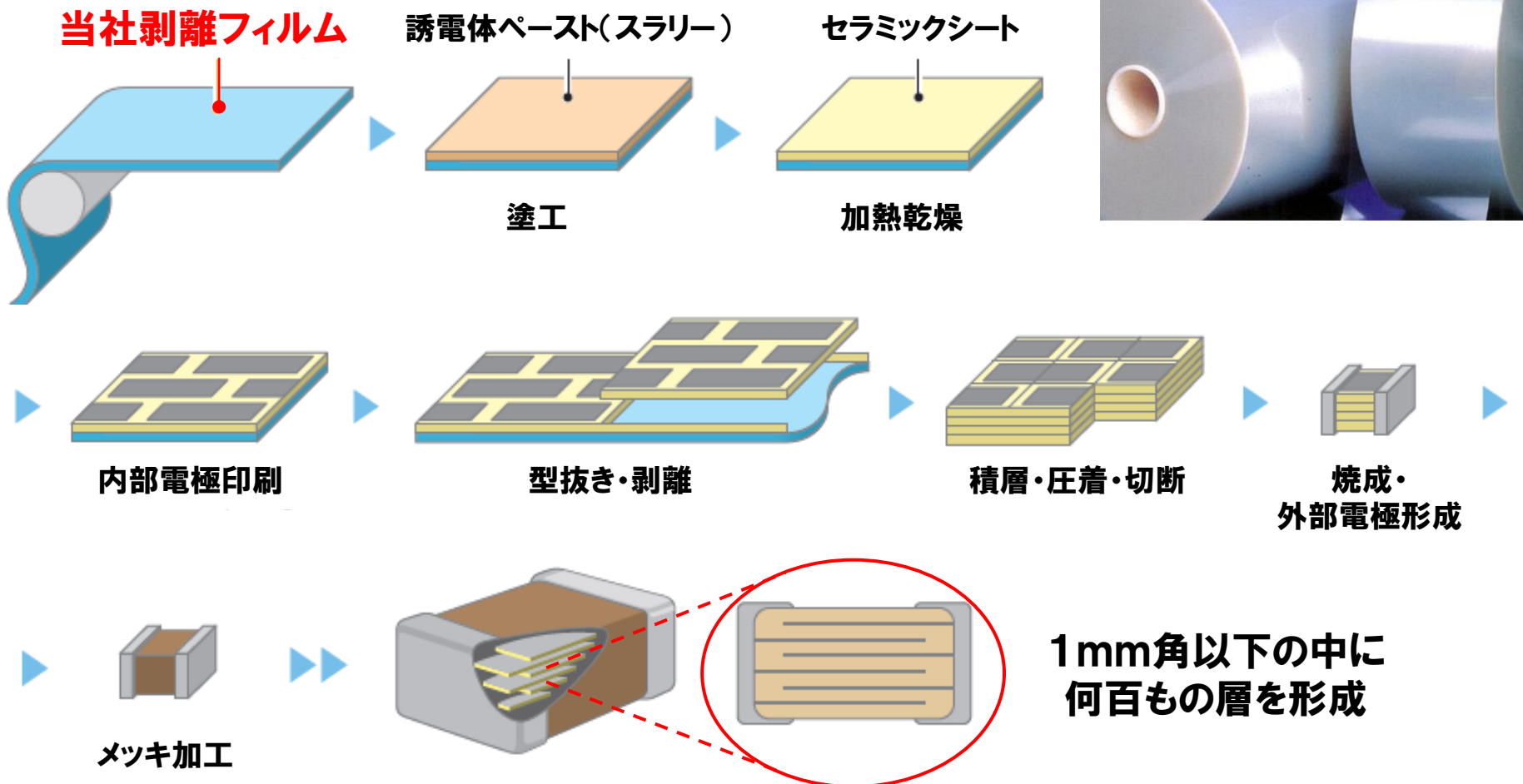


■SDBGを使用した半導体製造プロセス



● 積層セラミックコンデンサ関連テープ

■ 積層セラミックコンデンサの製造工程



●光学ディスプレイ関連粘着製品

●偏光・位相差フィルム / 粘着加工

●偏光フィルム / 表面加工 など

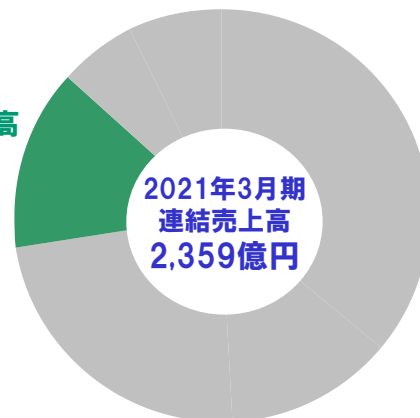
●タッチパネル関連製品 など

当事業部門売上高

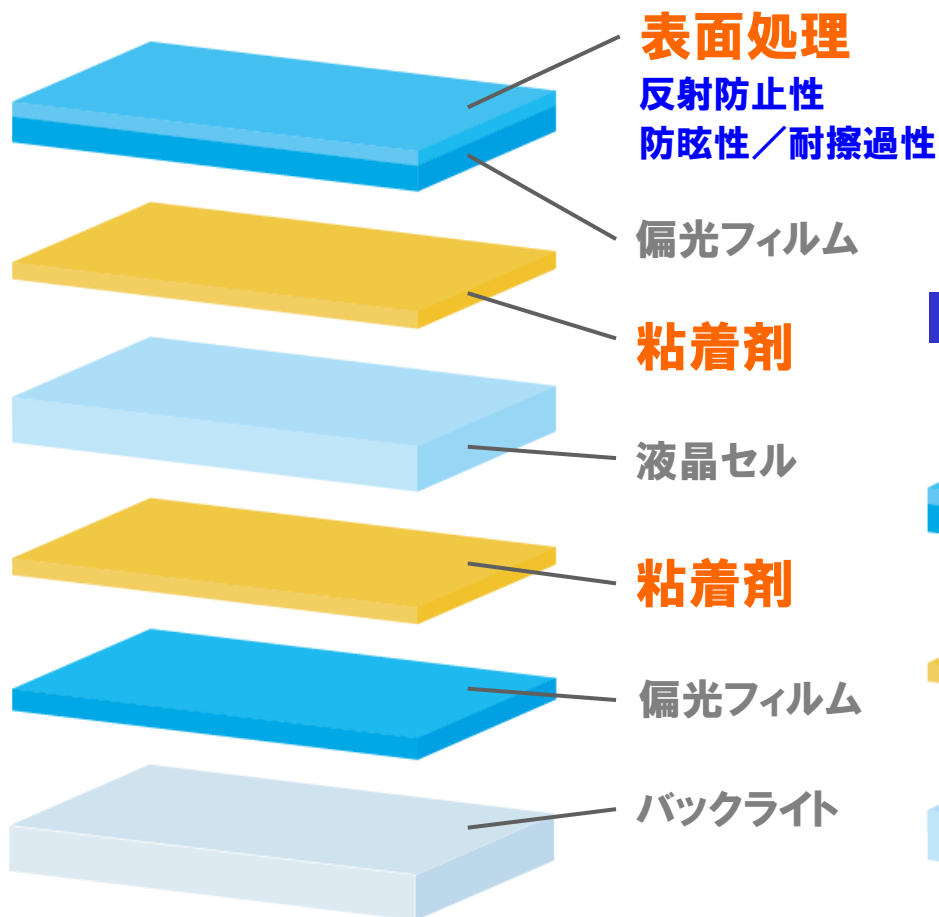
337億円

14.3%

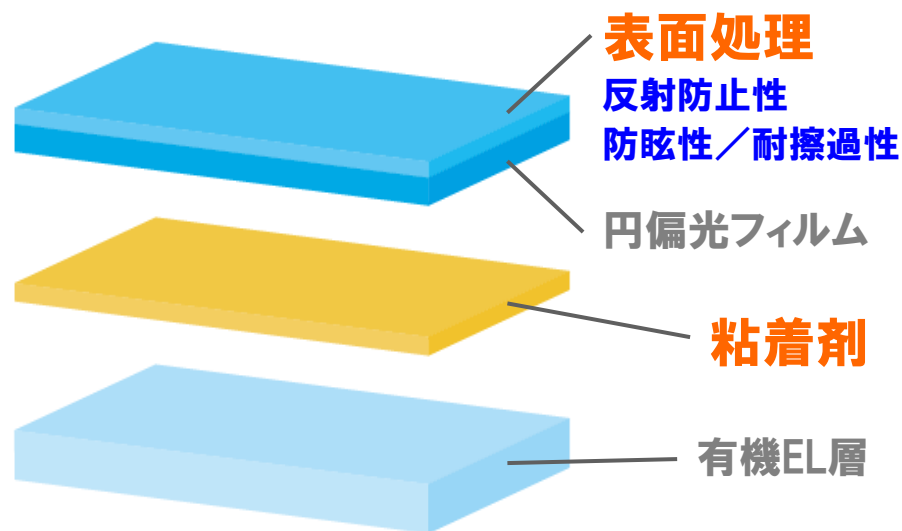
2021年3月期
連結売上高
2,359億円



■液晶ディスプレイの構成



■OLEDディスプレイの構成



●タッチパネル関連製品／注力製品

●車載用光学粘着シート

- ・車載用タッチパネルの貼合に使用される
高機能光学両面粘着シート

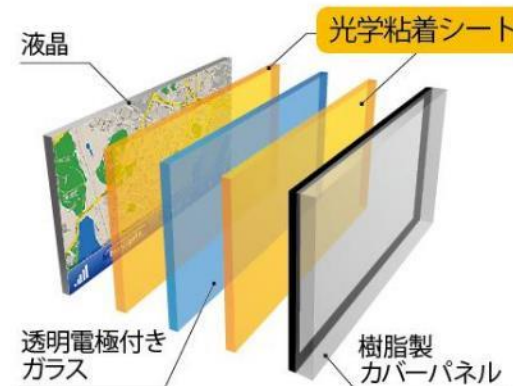
【主な特徴】

- ・車載用途で求められる厳しい耐久性基準をクリア
- ・プラスチック樹脂から発散されるアウトガスを抑制

●光拡散フィルム

- ・入射した光を必要な方向へ効率良く、最適に拡散させる光学機能性フィルム
- ・バックライトを使わない反射型ディスプレイにおいて、従来よりも明るい画面表示を実現

■車載用タッチパネルの構成図



■光拡散フィルムの採用事例



スマートウォッチ



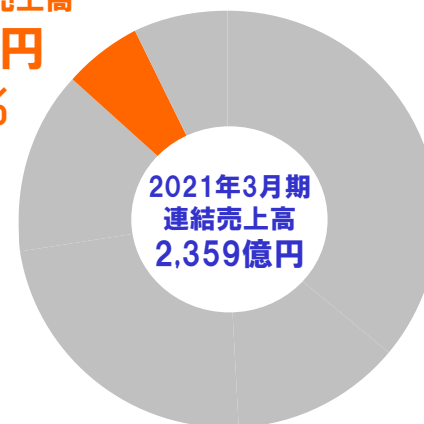
自転車用GPSナビ

- カラー封筒用紙
- 色画用紙
- 特殊機能紙(耐油耐水紙、無塵紙など)
- 高級印刷用紙
- 高級紙製品用紙 など

当事業部門売上高

144億円

6.1%



- 粘着製品用剥離紙
- 電子材料用剥離紙
- 光学関連製品用剥離フィルム
- 合成皮革用工程紙 (剥離紙)
- 炭素繊維複合材料用工程紙 (剥離紙) など

当事業部門売上高

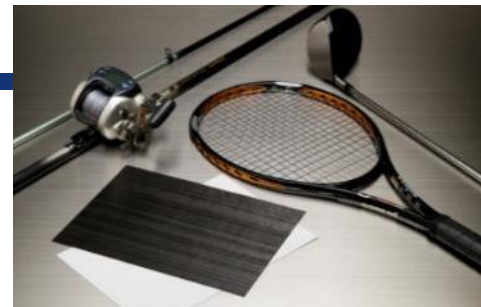
167億円

7.1%



●炭素繊維複合材料用工程紙

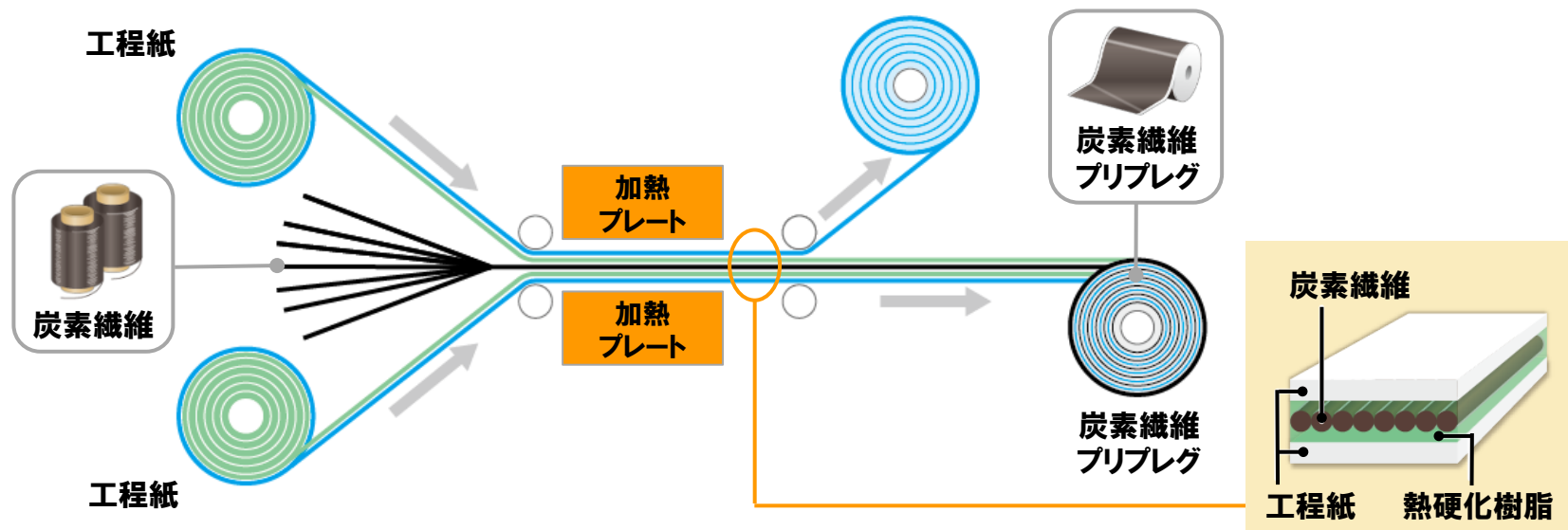
- ・炭素繊維をシート状に並べて樹脂で固めた複合材料「炭素繊維プリプレグ」をつくる際に台紙として使用
- ・炭素繊維プリプレグは、テニスラケットやゴルフシャフト、釣り竿などのスポーツ・レジャー用品のほか、航空機の機体などに使用され、需要が拡大している



主な特徴

- ・樹脂塗工適性
- ・耐熱性
- ・強度
- ・表裏の剥離力バランス

■炭素繊維プリプレグの製造工程



2021年3月期 連結業績

(単位:億円)

21/3月期
実績

20/3月期
実績

増減
(増減率)

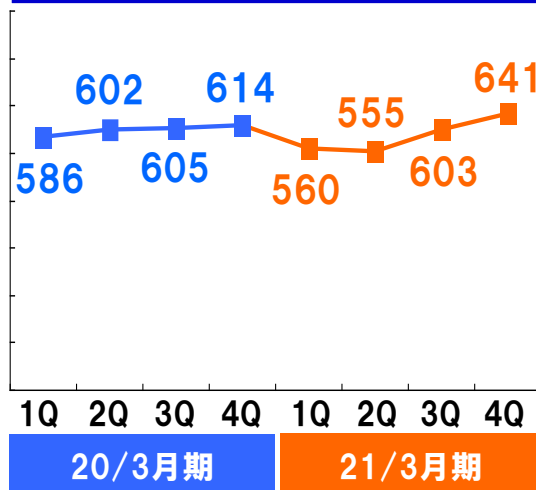
売上高 2,359 2,407 ▲48
(▲2.0%)

営業利益 170 154 16
(10.3%)

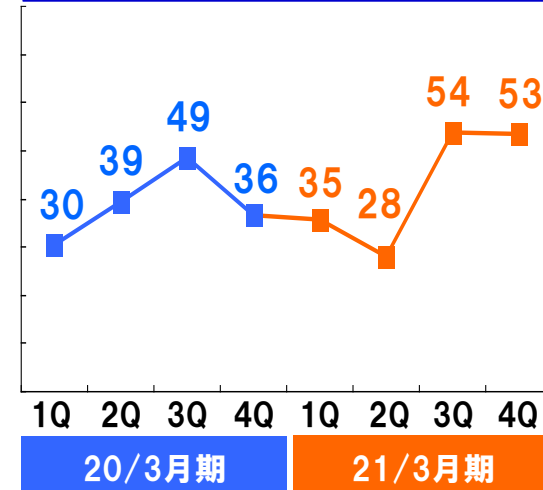
経常利益 168 145 23
(15.8%)

親会社株主に
帰属する
当期純利益 114 96 18
(18.6%)

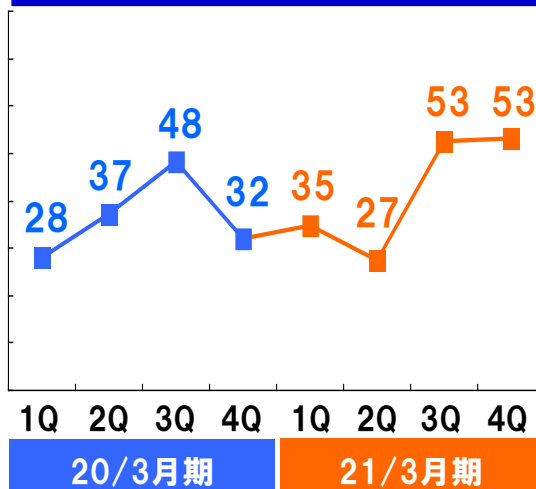
売上高



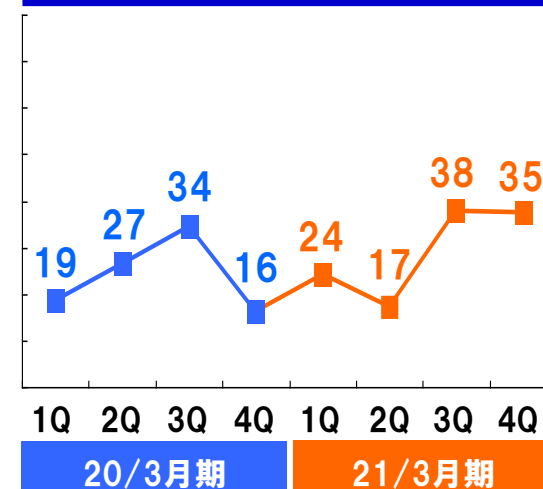
営業利益



経常利益



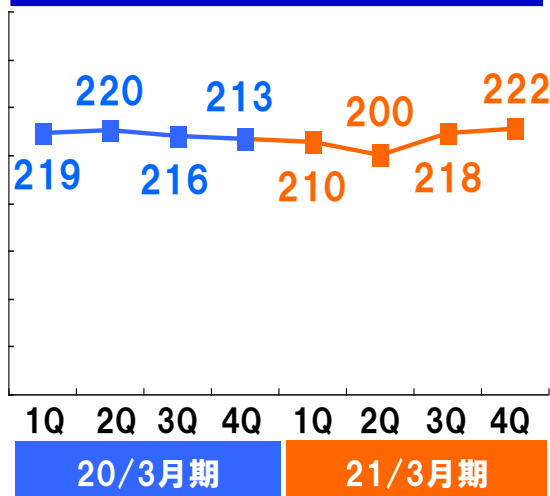
親会社株主に帰属する当期純利益



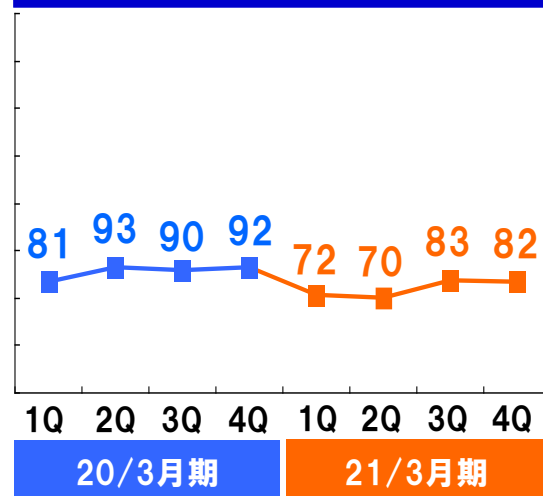
(単位:億円)

印刷材・ 産業工材 関連	21/3月期 実績	20/3月期 実績	増減 (増減率)
印刷・情報材 事業部門	850	868	▲18 (▲2.0%)
産業工材 事業部門	307	356	▲49 (▲13.8%)
セグメント 売上高	1,157	1,224	▲67 (▲5.5%)
セグメント 営業利益	▲2	9	▲12 (-%)

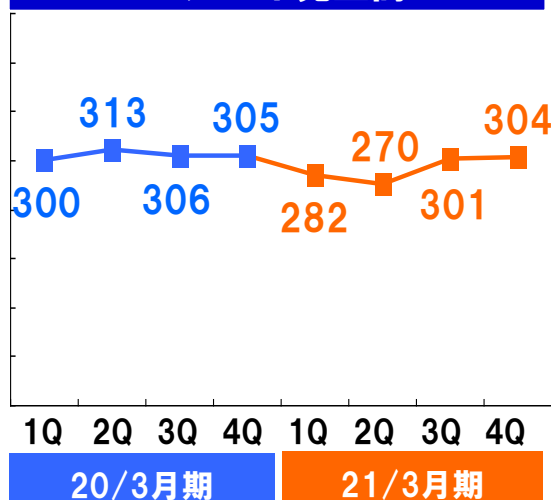
印刷・情報材事業部門 売上高



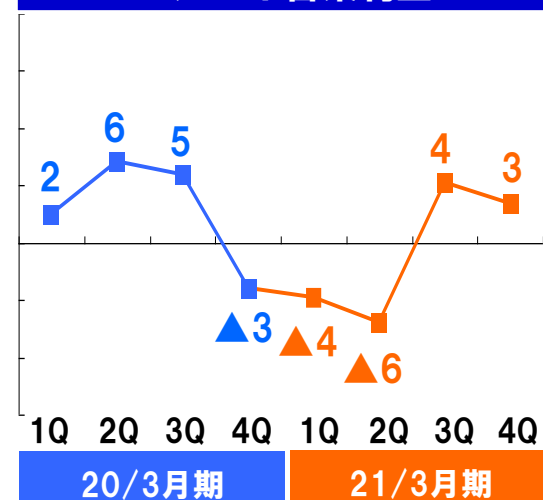
産業工材事業部門 売上高



セグメント売上高



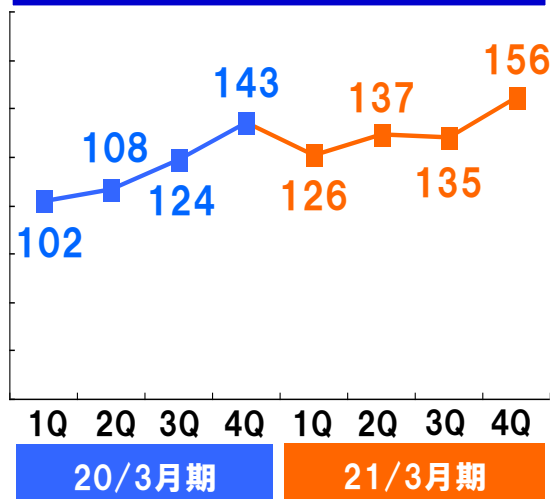
セグメント営業利益



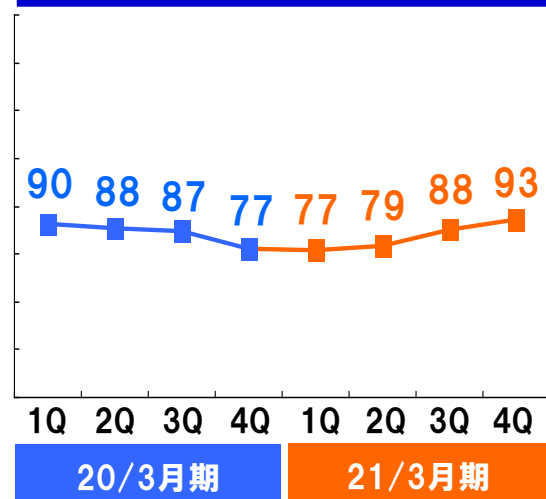
(単位:億円)

電子・光学 関連	21/3月期 実績	20/3月期 実績	増減 (増減率)
アドバンス マテリアルズ 事業部門	553	477	76 (16.0%)
オプティカル材 事業部門	337	343	▲ 6 (▲ 1.7%)
セグメント 売上高	890	819	70 (8.6%)
セグメント 営業利益	144	110	35 (31.5%)

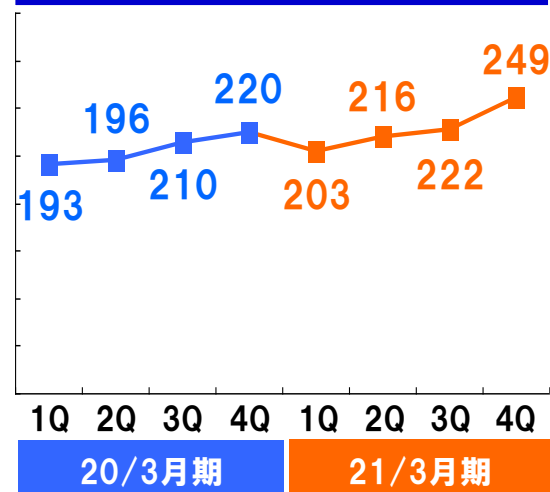
アドバンスマテリアルズ事業部門 売上高



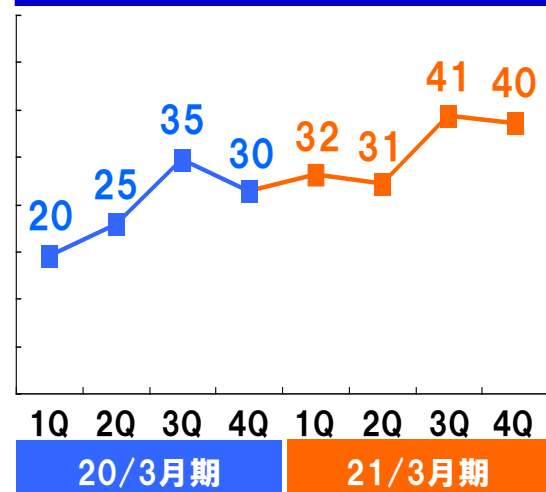
オプティカル材事業部門 売上高



セグメント売上高



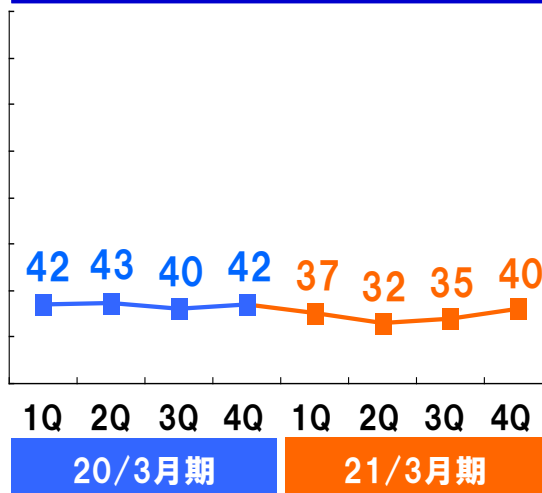
セグメント営業利益



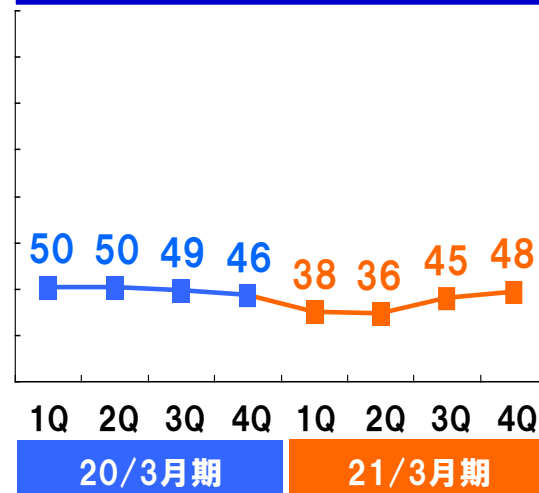
(単位:億円)

洋紙・加工材 関連	21/3月期 実績	20/3月期 実績	増減 (増減率)
洋紙 事業部門	144	167	▲23 (▲13.7%)
加工材 事業部門	167	196	▲29 (▲14.7%)
セグメント 売上高	312	364	▲52 (▲14.2%)
セグメント 営業利益	27	35	▲8 (▲21.8%)

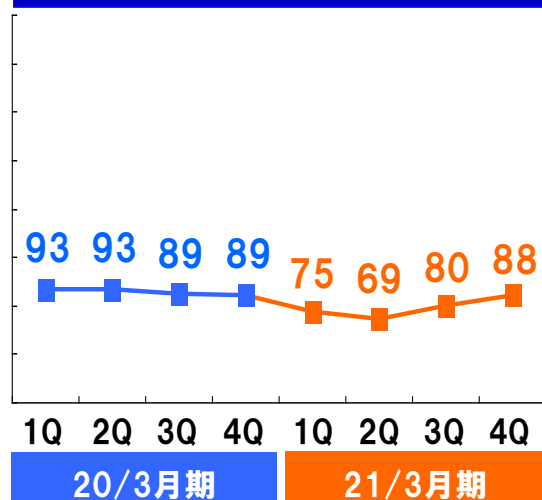
洋紙事業部門 売上高



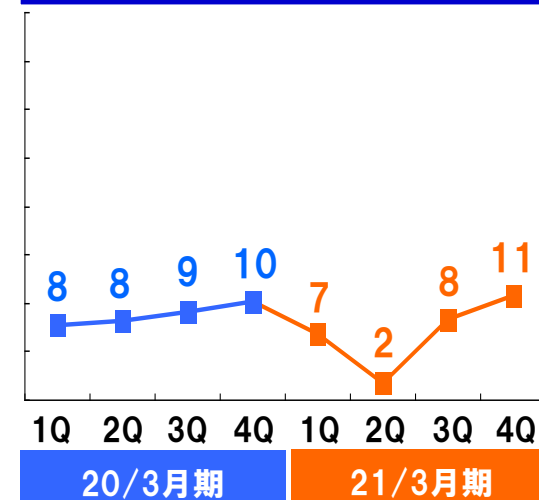
加工材事業部門 売上高



セグメント売上高



セグメント営業利益



2022年3月期通期 連結業績の見通し

(単位:億円)

	22/3月期 通期予想	21/3月期 通期実績	増減 (増減率)
売上高	2,400	2,359	41 (1.7%)
営業利益	175	170	5 (2.8%)
経常利益	175	168	7 (4.3%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	125	114	11 (9.6%)

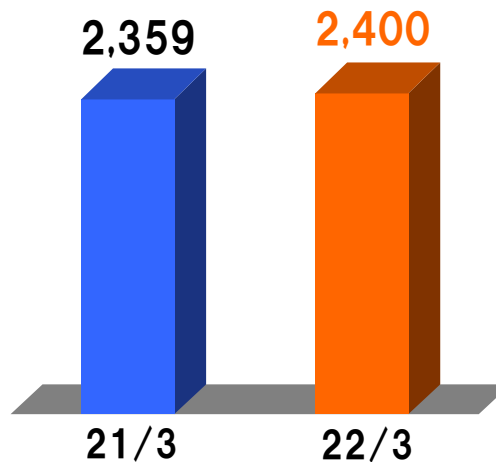
※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、2022年3月期の予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっており、増減および増減率は参考値として記載しております。

単位:億円

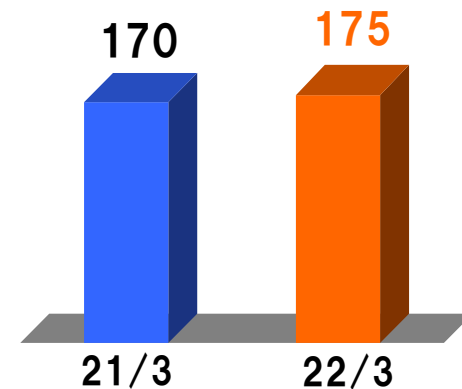
実績

予想

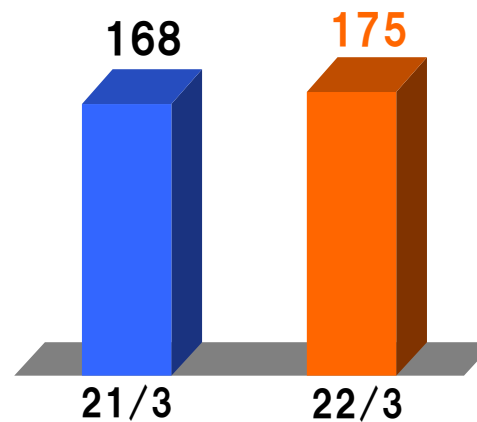
売上高



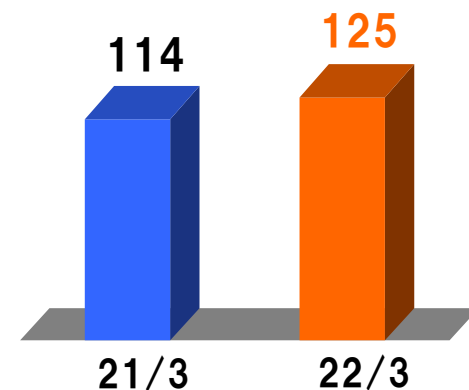
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



2022年3月期通期 セグメント別売上高/営業利益の見通し

(単位:億円)				(単位:億円)				(単位:億円)			
印刷材・ 産業工材 関連	22/3 通期 予想	21/3 通期 実績	増減 (増減率)	電子・光学 関連	22/3 通期 予想	21/3 通期 実績	増減 (増減率)	洋紙・加工材 関連	22/3 通期 予想	21/3 通期 実績	増減 (増減率)
印刷・情報材 事業部門 売上高	956	875	81 (9.2%)	アドバンス マテリアルズ 事業部門 売上高	610	553	57 (10.3%)	洋紙 事業部門 売上高	142	145	▲ 3 (▲ 1.7%)
産業工材 事業部門 売上高	294	282	12 (4.2%)	オプティカル材 事業部門 売上高	221	337	▲ 116 (▲ 34.4%)	加工材 事業部門 売上高	177	167	10 (5.7%)
セグメント 売上高	1,250	1,157	93 (8.0%)	セグメント 売上高	831	890	▲ 59 (▲ 6.6%)	セグメント 売上高	319	312	7 (2.3%)
セグメント 営業利益	5	▲ 2	7 (-%)	セグメント 営業利益	153	150	3 (1.8%)	セグメント 営業利益	17	22	▲ 5 (▲ 20.5%)

※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、2022年3月期の予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっており、増減および増減率は参考値として記載しております。

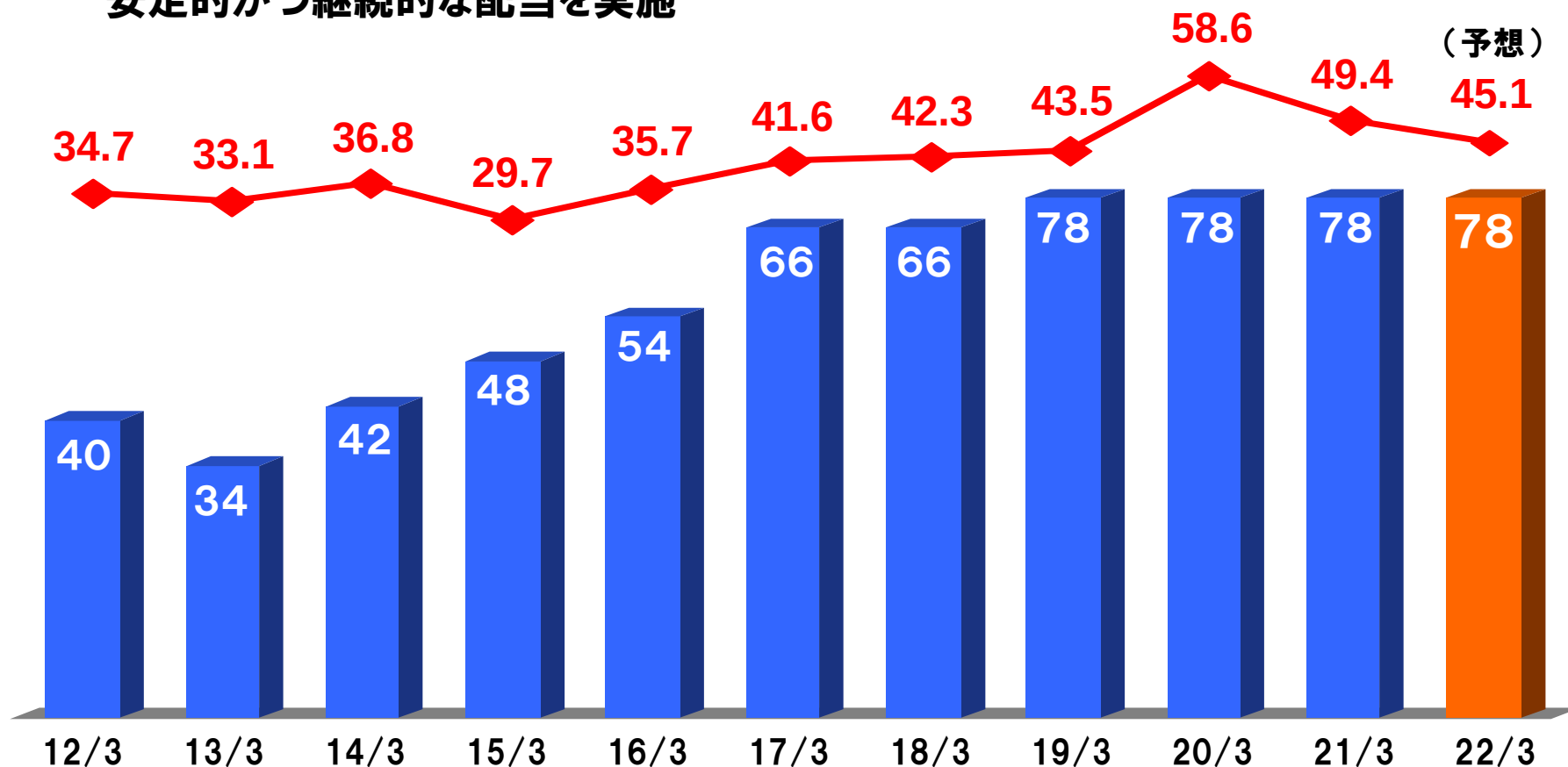
※2022年3月期の期首よりマックタック・アメリカ社の産業工材事業部門に関わる全ての製品を印刷・情報材事業部門へ、洋紙・加工材関連の一部製品を電子・光学関連へ移管しました。2021年3月期の実績は組み替えて記載しております。

● 1株当たり配当金推移 (円)

■ 実績 ■ 見通し ◆ 配当性向 (%)

● 利益配分の基本方針

経営基盤の強化を図りつつ、各事業年度の連結業績を勘案し、
安定的かつ継続的な配当を実施





名 称 LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030 (略称:LSV 2030)

期 間 2021年4月～2030年3月

基本方針 イノベーションによる企業体質の強靱化と持続的成長に向けた新製品・新事業の創出を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献する

重点テーマ

1. 社会的課題の解決
2. イノベーションによる企業体質の強靱化
3. 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

2030年3月期 財務指標

売上高営業利益率

12%以上

ROE (自己資本当期純利益率)

10%以上



名 称

LSV 2030 – Stage1

期 間

2021年4月～2024年3月

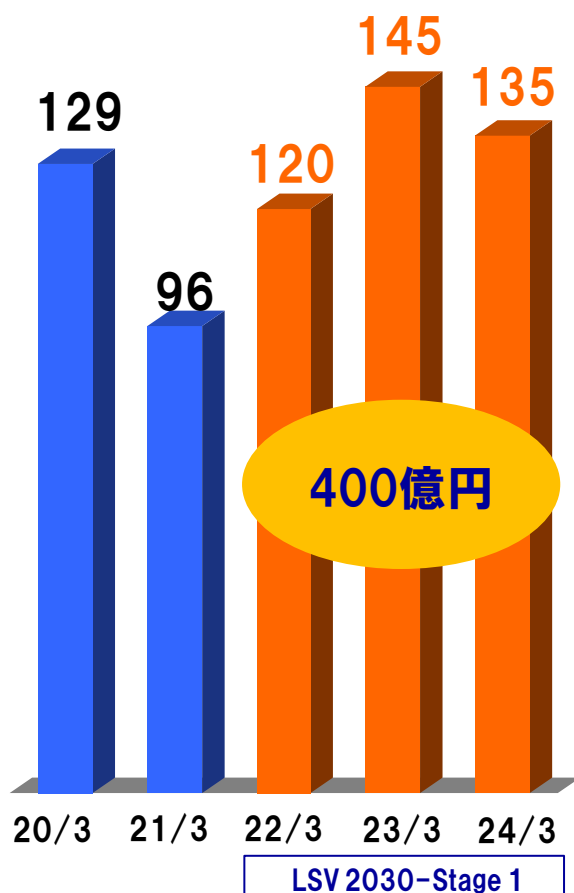
2024年3月期（最終年度）経営目標

■売上高	2,550億円
■営業利益	210億円
■親会社株主に帰属する 当期純利益	140億円
■売上高営業利益率	8%以上
■ROE（自己資本当期純利益率）	7%以上

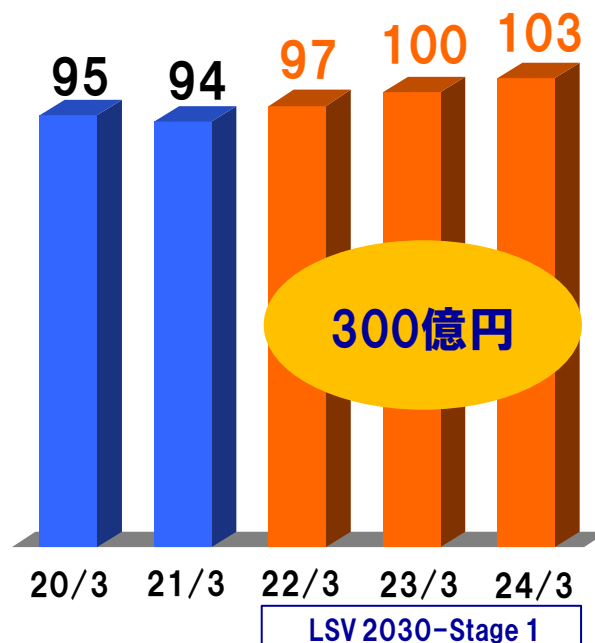
設備投資額・減価償却費・のれん償却額・研究開発費

単位: 億円 ■実績 ■見通し

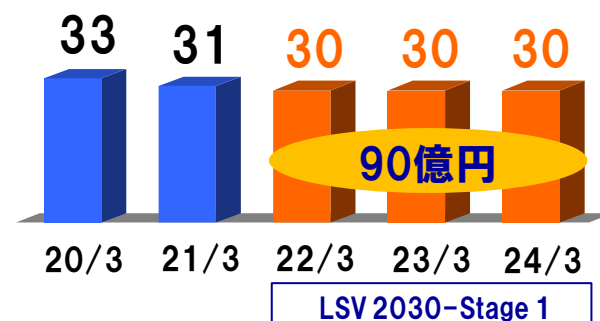
設備投資額



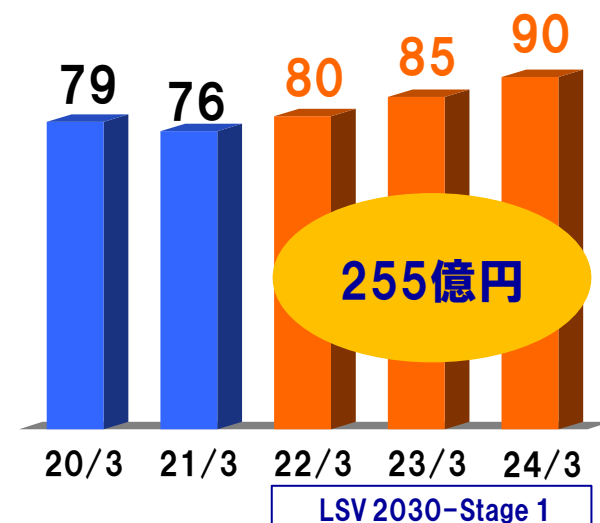
減価償却費



のれん償却額



研究開発費

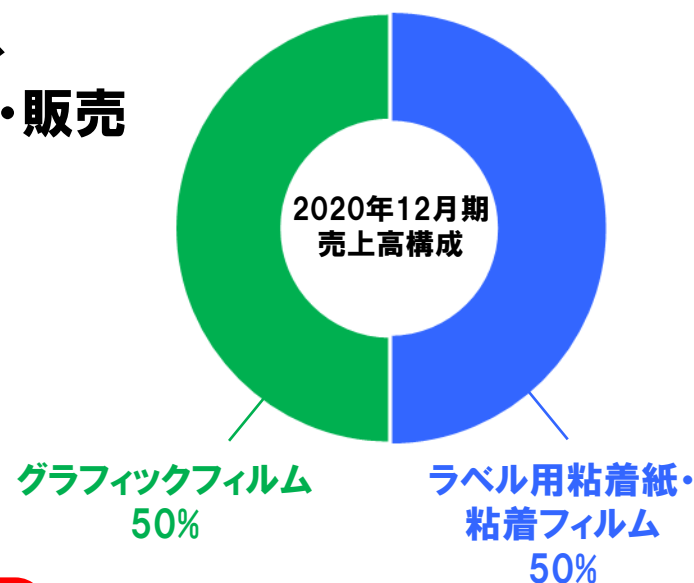


● Duramark Products, Inc.*

- 所在地 : 米国・サウスカロライナ州
- 創業 : 1983年
- 従業員数 : 170人(2020年12月末現在)
- 事業内容 : ラベル用粘着紙・粘着フィルム、
グラフィックフィルムなどの製造・販売
- 売上高 : 7,600万ドル (2020年12月期)
- 営業利益 : ▲1,900万ドル (2020年12月期)
- 取得価額 : 約6,000万ドル (取得割合100%)
- 取得日 : 2021年4月1日

* 2021年4月8日付で Mactac, Inc. に社名変更

- ・ラベル用粘着紙・粘着フィルムの生産能力の増強
- ・グラフィックフィルムの内製化・拡販



●社是



●経営理念

社名の「リンテック」、すなわち“リンケージ（結合）”と“テクノロジー”および社是「至誠と創造」に裏付けされる人の和、技術開発力を基軸とし、国内・海外の業界において、だれからも信頼される力強い躍動感あふれる会社として社会に貢献し、株主各位・顧客・社員家族の期待にこたえる斬新な経営を推進します。

「明日を考え、今日を築こう」
For tomorrow we build today

本資料および当社製品などに関するお問い合わせ先

リンテック株式会社 広報・IR室

〒173-0001 東京都板橋区本町23-23

TEL.03-5248-7741

本資料に掲載されている業績見通しに関する内容につきましては、本資料の作成日現在において想定できる経済情勢、市場動向および計画などに基づき作成したものであり、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。したがって、実際の業績は、今後のさまざまな要因によって異なる可能性があります。